



# 實性

令和五年 第三号 お盆号発行

## お盆回向のご案内

七月から八月にかけては、お盆の季節です。

お盆は、サンスクリット語「ウラボン」といいます。漢字に置き換えると、「盂蘭盆会」となります。意味は、「倒懸（とうけん）」「逆さ吊り」という意味です。

「盂蘭盆会」とは、「逆さ吊りになった者」を救う法要ということになります。「逆さ吊りになった者」とは、餓鬼道に墜ちてしまった、お釈迦様のお弟子さん目連尊者のお母さんです。この地獄には、死後の世界ばかりではなく、苦しみ悩んでいる人々は、仏様の眼から見ると、みんな「餓鬼道」に墜ちた者という事になります。

人の欲望には限りがありません。お金や財産、地位、名誉等を持つている人は、それによって苦しみ、又、持っていない人は、それらを求めて、悩み苦しむ、有るも苦なら、無いのも苦、無ければ欲しい、有っても足りない、欲しいと飢え渴き続け、「足る」ということをしらず、苦しんでいるのが餓鬼の姿です。「盂蘭盆会」法要を通して、自分の心を振り返り気づくことが大切です。

お盆は、亡くなられた方をご縁に仏法を聞いて、苦しみ、飢え、渴きを持つ自分自身を救う日なのです。

近年、古くからの風習は失われつつあります。時代と共に進化することは、とても大切ですが、昔から伝わる美しい伝

統を後世にも伝承していくことは、さらに大切であり、何より、お盆本来の意味を知ること、ご先祖様や、隣人に対する感謝の気持ちが生まれてきます。

最も大切なのは、ご先祖様を供養する気持ちです。心のこもった「おもてなし」を実践して下さい。

何よりご先祖様を供養することは、実は、我々が救わなければならないのは、私自身であったことを気づかしめることであり、餓鬼のような自身の有り様に、痛みを感じることに、広く優しさを培うことが目的なのです。

## 四年ぶりの通常のお盆回向です

### 七月お盆法要

七月十五日(土)

● 午前十一時 ★時間が変更になっております。

### 八月お盆法要

八月十三日(日)

● 午前十時

● 午前十一時三十分

※お盆法要のお塔婆はお早めにお申込み下さい。

★八月お盆法要のご案内は改めてご案内致します。



## お施餓鬼会のご報告

五月二十七日（毎年第四土曜日）お施餓鬼会が厳修されました。本年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため縮小して、午前十一時よりの開始となりました。

来年は、近隣の御住職ご奉仕にともない。午後一時半開始となります。法要開始前にお話しさせていただきました、「施餓鬼会」について、まずは、「施餓鬼」とは、現在のボランティアの原点で有ること。すなわち、奉仕をすること、これも見返りのないご自身の心の佐用です。自身は元より、隣人が困っておられたならば、できる限りの布施をしなさい。布施とは、金銭とは限りません。鉢で奉仕すること、心より祈ることでもあります。

自分が施し（奉仕）することの意義、そして、施しが出来ることの喜びが布施の行です。この布施の行の一つが托鉢です。

僧侶が手甲脚半に網代傘、頭太袋、そして、鉄鉢の姿を見たことがあると存じますが、お金、お米などを喜捨していただきますが、布施をさせていただきありがとうございますと手を合わせます。僧侶は、これに対して、一礼することなく、無言でお念仏を唱えます。托鉢とは、布施の型を表したもののなのです。



## お釈迦様の最後の説法

### 「自灯明」 「法灯明」

お釈迦様と最後の旅に出た弟子のアーナンダに対して、お釈迦様はこう申されました。「アーナンダよ。何を悲しんでいる。私はもう八十歳になった。ぼろ車のようになってしまった。アーナンダよ、鉢中が痛い。撫でておくれ。」アーナンダは心細さのあまり「これから、世尊に取り残された私は、どうして生きていったらいいでしょう。」この時、お釈迦様が弟子のアーナンダに残したといわれるのが、後に、「自灯明、法灯明」と呼ばれる言葉です。

「アーナンダよ。悲しむことはない。いつも言っているではないか。生あるものは必ず滅びる。愛する者とはいっか別れなければならぬのだ。これからは、自分自身を灯とし、法を灯とし、さらに励むがよい。他には何もよりどころにしてはならない。」「自分を頼りとし、正しい教えを道しるべとしなさい。」と言われました。自分の中に、真実の自己ともあるものがあり、それが自分を教え導く師であり、教えであるが故、自分の中の仏性と理法のみをよりどころとするということなのです。

「布施」とは

仏教の修行に六波羅蜜という六つの行いがあります。その六つとは

- 一、布施 完全なる善意
- 二、持戒 戒律を守る
- 三、忍辱 耐え忍ぶこと
- 四、精進 努力をすること
- 五、禅定 瞑想(己を見つめること)
- 六、智慧 智慧をもつて進むこと

迷える世界から、悟れる理想の世界へ歩むための道のことです。その六度の最初にあるのが「布施」の行です。奉仕・貢献することですが、今日の言葉にて表すと、ボランティアの原点のようなものです。

「布施」には、「財施」「法施」「無財の七施」というのがあります。

「財施」は、物質的、金銭的なものを指します。

「法施」は、御仏の教えをお伝えすることを指します。

私共、僧侶が法要をしたりお説教をすることがこれにあたります。

「無財の七施」は、物質的なものではなく、誰もができる布施行のことです。

- 一、眼施がんせ……………優しいまなざしを他人に向けること
- 二、和顔施わがんせ……………微笑みを絶やさず人に接すること
- 三、言施ごんせ……………優しい言葉で話すこと
- 四、身施しんせ……………手を貸し、お手伝いをすること
- 五、心施しんせ……………気配りをし、真心で接すること
- 六、床座施しょうざせ……………座のところや、寝る所を提供すること、席を譲る事も
- 七、房舎施ぼうしゃせ……………住まいを清潔に保つこと、寝所を提供すること

「財施」ばかりでなく、他の人に奉仕する「布施」の行はたくさんあると思います。お寺にお納めいただくのは、財施の「布施」にあたります。



Flowers in the precincts

# 境内の花



三寸あやめ



芍薬



大山蓮華

## 七夕

今年も境内に蓮の花が咲きます。

九つの大きな蓮鉢に九種類の蓮があります。それぞれに美しく花を結びます。笹を本堂前に用意致しますので、どうぞ蓮の花を見ながら短冊に願い事を書きにお出かけ下さい。



## ばらもん凧

井下佳弘氏より、NHK朝ドラ「舞い上がれ」の舞台の一つ、長崎県五島列島、そこに登場する「ばらもん凧」をお納めいただきました。

「ばらもん凧」とは、五島の方言で「ばらか」に由来し、(諸説あります)「元気な」「勇猛な」などを意味します。最初に目につくのは、鬼の顔ですが、「ばらもん凧」のイメージとして描かれているのは、鬼ではなく、鬼に正面からかみつかれた武者の姿です。

※客殿廊下にお飾りしております。  
どうぞご覧下さい。



## 駐車場

当寺には山門右横の五ヶ六台の駐車場しかございません。  
ご法事・お寺の行事(修正会・彼岸会・お施餓鬼・お盆等)には、とても不十分です。今までは、お檀家様の駐車場をその都度お借りしておりましたが、空きが無くなり、ご用意することができません。

お寺の周りには、コインパーキングが数カ所ございます。そちらも限りがございますが、ご利用いただくしかありません。その点は何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確です。ご利用下さい。

ファックス番号 03(3883)3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八  
電話 03(3883)8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jishoji.com>

